

産地生産基盤パワーアップ事業評価書

都道府県名	事業実施 地区数 ア	評価対象 外地区数 イ	評価対象 地区数 アーイ	成果目標 の平均達 成率	評価対象 地区数のうち、都道府 県が地域 協議会へ 改善指導を 必要とした 地区数	地方農政 局等から都 道府県計 画の改善 指導の必 要の有無	【参考】 評価対象 地区数のうち、達成率 80%未満の 地区数	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
鹿児島県	44	28	16	56.3%	9	有	8	【県全体】 令和3年度を目標年度としている16計画のうち7計画は目標を達成し、9計画は目標を達成することができなかった。 目標未達成となった9計画を策定した9地域協議会に対しては、目標達成に向けて、関係機関・団体と連携して指導を行っていく。 1 収益性向上対策 (生産コストの10%以上の削減) 野菜1計画は、トラクター等をリース導入し、作業効率は図られたが、肥料費等の高騰により、生産コストが削減できなかったことから目標を達成することができなかった。 (契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること) 甘藷1計画は、貯蔵施設を整備し、労働不足等により面積・生産量は目標を達成できなかったが、生産量は減少したが、計画どおり契約栽培を達成することができ、目標達成となった。 (販売額の10%以上の増加) 野菜4計画、さとうきび2計画は、集出荷施設等の整備や管理機等のリース導入により、販売額が増加し、計画どおり10%以上増加することができ、目標達成となった。 野菜5計画、果樹1計画は、集出荷貯蔵施設等の整備や管理機等をリース導入したが、異常気象等の影響による生育不良や新型コロナウイルス感染症等の影響による販売先の需要低迷等により、計画どおりの販売額を確保できなかったことから、目標を達成することができなかった。 (労働生産性の10%以上の向上) 野菜1計画は、出荷調整機等を整備したが、豪雨災害の被害を受け、出荷量が減り、出荷調整作業に多くの時間を要したため、労働生産性が低くなったことから、目標を達成することができなかった。 甘藷1計画は、管理機等をリース導入し、労働時間の削減は図られたが、病害の発生により、収量が減少し目標を達成することができなかった。 2 生産基盤強化対策 かんしょの栽培面積について目標が達成されていないが、各取組において地力の向上が図られていると評価できるため、今後も引き続き取り組んでいきたい。	県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し56.0%であり、目標は達成されていない。このため、農政局から県に対し、成果目標の達成に向け、要因の分析及び改善措置の提出を求めるとともに、未達成の地域協議会及び取組主体に対しては、県担当者による指導を行うなど、県による主体的な取組を指導する。 なお、鹿児島県が改善指導を必要とした地区(達成率90%未満)については、9地区である。 <参考:評価対象地区の概要> 【野菜】(9地区) 令和3年度の評価対象の9地区のうち、目標達成している地区は4地区、未達成が5地区となっている。生産コストの削減の目標が未達成となった1地区(葉ねぎ等)の主な要因は、肥料費等の高騰による、販売額増加の目標が未達成となった3地区の主な要因は、1地区(レタス、キュウリ)は新型コロナウイルス感染症の影響による販売減、1地区(キャベツ)は、秋の高温による発芽不良により収穫量が減少したこと、1地区(にんじん)は、排水対策により作付面積が減少したことによる、労働生産性向上の目標が未達成となった1地区(ねぎ)は、7月豪雨や8月長雨による生育不良やサイズ不揃いによる調整作業等に時間を要したためによる未達成である。 【果樹】(1地区) 令和3年度の評価対象の1地区は、目標未達成となっている。販売額増加の目標が未達成となった1地区は、高温乾燥等の天候不順の影響により、単収が減少したことによる未達成である。 【大麦若葉、明日葉、ケール】(1地区) 令和3年度の評価対象の1地区は、目標未達成となっている。販売額増加の目標が未達成となった1地区は、長雨等による発芽不良や生育不良で単位当たりの収量が減少したことによる未達成である。 【ばれいしょ、さつまいも】(3地区) 令和3年度の評価対象の3地区のうち、目標達成している地区は1地区、未達成が2地区となっている。販売額増加の目標が未達成となった1地区(ばれいしょ)は、病害発生や突風による塩害により低単収となったことによる、労働生産性向上の目標が未達成となった1地区(かんしょ)は、基腐病により収穫量等が減少したことによる未達成である。 【さとうきび】(2地区) 令和3年度の評価対象の2地区は、目標達成している。